

# 哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
現代哲学概論	近現代哲学の諸問題 (1)	2	直江 清隆	3	金	2
現代哲学概論	現代哲学の諸問題 (2)	2	直江 清隆	4	金	2
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原 壱	3	水	4
現代哲学概論	言語哲学入門	2	原 壱	4	水	4
哲学思想概論	古代哲学史 (前篇)	2	荻原 理	3	木	2
哲学思想概論	古代哲学史 (後篇)	2	荻原 理	4	木	2
哲学思想概論	デカルト『省察』入門	2	城戸 淳	3	火	2
哲学思想概論	近代哲学史 (6) 人間 への問い	2	城戸 淳	4	月	4
哲学思想基礎講読	自律道德の問題—— E.Tugendhatの人間学 (1)	2	小松 恵一	3	木	3
哲学思想基礎講読	自律道德の問題—— E.Tugendhatの人間学(2)	2	小松 恵一	4	木	3
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン (2)	2	荻原 理	3	水	3
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	直江 清隆 城戸 淳	4	水	3
哲学思想各論	ニーチェの道德批判	2	城戸 淳	5	木	2
哲学思想各論	「フランクフルト学 派」の哲学とその周辺	2	齋藤 直樹	5	月	4
哲学思想各論	知覚の哲学入門	2	佐藤 駿	6	木	4
哲学思想各論	科学と疑似科学の間	2	伊勢田哲治	集中		
生命環境倫理学各論	生命環境倫理の諸問題	2	直江 清隆	5	火	3

# 哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
生命環境倫理学演習	AIと人間（医療や気候変動など）	2	直江 清隆	6	火	3
哲学思想演習	アーレント『革命論』再読	2	森 一郎	5	火	4
哲学思想演習	現象学研究	2	直江 清隆	5	火	5
哲学思想演習	現象学研究	2	直江 清隆	6	火	5
哲学思想演習	プラトン『ソフィステス』を読む(1)	2	荻原 理	5	月	3
哲学思想演習	プラトン『ソフィステス』を読む(2)	2	荻原 理	6	月	3
哲学思想演習	哲学のメソッド	2	原 壱	5	金	4
哲学思想演習	記号論理学	2	原 壱	6	金	4
哲学思想演習	概念工学研究 1	2	原 壱	5	金	5
哲学思想演習	概念工学研究 2	2	原 壱	6	金	5
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	5	水	5
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	6	水	5
哲学思想演習	カントの目的論	2	城戸 淳	6	木	2

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB35206, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：近現代哲学の諸問題（1）

2. Course Title (授業題目) : Issues in Contemporary Philosophy

3. 授業の目的と概要：

この授業では、近現代の大陸哲学の基本概念を学ぶ。その際、歴史順に概観するのではなく、「生命と生」「身体」「他者理解」などの重要な問題に沿って検討を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course deals with the basic concepts of modern and contemporary continental philosophy, by picking up some important issues such as "life," "body/embodiment" "understanding others," and so on.

5. 学習の到達目標：

現代哲学の意義について理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course provides students with opportunities to understand the importance of philosophical thinking. It is also designed to help students gain the perspective needed to describe it in their own words.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。哲学者としてはレーヴィット、ヘルダー、ヘーゲル、ディルタイ。ハイデガー、ガダマー、フッサールなどが取り上げられる予定です。

1. 哲学はなにではないのか
2. 懐疑と相対主義(1)
3. 懐疑と相対主義(2)
4. 近代の自然観の成立
5. 近代的自然観への叛逆
6. 知識と歴史主義(1)
7. 知識と歴史主義(2)
8. 「歴史科学」の特質
9. 「精神科学」の特質
10. 生活世界と学問 (1)
11. 生活世界と学問 (2)
12. 異なるものの理解(1)
13. 異なるものの理解(2)
14. テキストと作者
15. まとめ

コメントメーバーにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにし、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられるようにします。また、今年の授業では毎回ワークシート を用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキスト の主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりなどでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

8. 成績評価方法：

平常点 30% レポートないし試験（問題は事前公開） 70%

9. 教科書および参考書：

教科書：新田義弘『哲学の歴史』（講談社現代新書） 授業で扱った事柄が同一位置にあるかを概観するのに便利。参考書は随時授業中に紹介します。

10. 授業時間外学習：

授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、上記教科書で位置づけを理解し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。

また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB45205, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：現代哲学の諸問題（2）

2. Course Title (授業題目)：Issues in Contemporary Philosophy

3. 授業の目的と概要：

この授業では、近現代の大陸哲学の基本概念を学ぶ。その際、歴史順に概説るのではなく、「懐疑と相対主義」「理性と歴史」「説明と理解」などの重要な問題に沿って検討を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course deals with the basic concepts of modern and contemporary continental philosophy, by picking up some important issues such as "skepticism and relativism," "history and reason," "understanding and explaining," and so on.

5. 学習の到達目標：

現代哲学の意義について理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course provides students with opportunities to understand the importance of philosophical thinking. It is also designed to help students gain the perspective needed to describe it in their own words.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この講義では、現象学をはじめとする大陸哲学を題材に、世界、身体、他者、言語などに関する問いの所在と解決の方途を検討します。

1. ログス：ことわけと見分け
2. 生命（1）
3. 生命（2）
4. 生命と環境
5. 身体という謎(1)
6. 身体という謎(2)
7. 身体という謎(3)
8. ロボットと認知
9. 他者という謎(1)
10. 他者という謎(2)
11. 他者という謎(3)
12. ロボットとのコミュニケーション
13. 言語、身体と社会（1）
14. 言語、身体と社会（2）
15. まとめ

【必要に応じてテーマを一部差し替えるすることがあります】

コメントメーバーにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにし、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられるようにします。また、今回の授業ではワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりなどでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

8. 成績評価方法：

平常点 40% レポートないし試験（問題は事前公開） 60%

9. 教科書および参考書：

教科書：新田義弘『哲学の歴史』（講談社現代新書） 授業で扱った事柄が同一位置にあるかを概観するのに便利。参考書は随時授業中に紹介します。

10. 授業時間外学習：

授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、上記教科書で位置づけを理解し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。

また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB33406, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：心の哲学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Philosophy of Mind

3. 授業の目的と概要：

心の哲学は 20 世紀半ば以降、英米圏を中心に大きく研究が進展してきた分野である。この授業では、心の哲学で展開された議論を紹介しながら、心の様々な性質—心の因果性、現象的意識、心の志向性、心の合理性—を順に分析していく。講義形式で授業を行うが、学期中数回、演習問題ととりくんでもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In the course, various properties of the mind will be discussed such as causality of the mind, phenomenal consciousness, intentionality, and rationality, while introducing the arguments developed in the philosophy of mind.

5. 学習の到達目標：

1. 概念や論証を分析する技術を習得する。
2. 心や意識についての現代的議論を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. To acquire the skills to analyze concepts and arguments.
2. To understand modern discussions about mind and consciousness.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

学期を通じた授業の構成は以下の通りである。

1. はじめに
2. 心の因果性 1
3. 心の因果性 2
4. 心の因果性 3
5. 心と意識 1
6. 心と意識 2
7. 心と意識 3
8. 心の志向性 1
9. 心の志向性 2
10. 心の志向性 3
11. 心の合理性 1
12. 心の合理性 2
13. 心の合理性 3
14. 心に関する諸問題
15. まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出 (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007 年

10. 授業時間外学習：

授業用スライドを、あらかじめ ISTU にアップロードしておくので、授業前に内容を確認しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB43406, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語哲学入門

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of Language

3. 授業の目的と概要：

20 世紀以降、英米圏を中心に展開している分析哲学は、哲学的問題への取り組みが言語を用いてなされていることに着目し、言語の働きを分析することで哲学的問題に答えようとする。このため、分析哲学では、言語の基礎的現象、例えば、言語表現が何かを指示したり、意味したりすることができるのはなぜかを明らかにすることが重要な課題となった。この講義では、言語の指示や意味、あるいは発話の理解といったテーマに関して、分析哲学で行なわれてきた議論を概観する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This lecture reviews the discussions that have been conducted in analytical philosophy on topics such as reference and meaning.

5. 学習の到達目標：

1. 概念や論証を分析する技術を習得する。
2. 指示や意味についての哲学的議論を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. To acquire the skills to analyze concepts and arguments.
2. To understand philosophical arguments about reference and meaning.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の項目を順番に講義します。

1. はじめに
2. 指示と意味
3. 記述の理論 1
4. 記述の理論 2
5. 固有名 1
6. 固有名 2
7. 様々な真理概念 1
8. 様々な真理概念 2
9. 可能世界 1
10. 可能世界 2
11. 名指しと必然性 1
12. 名指しと必然性 2
13. 検証主義
14. 真理条件説
15. まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出 (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

服部裕幸『言語哲学入門』2003 年、勁草書房

Papineau, D. 2012. Philosophical Devices: Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：

授業用スライドを、あらかじめ ISTU にアップロードしておくので、授業前に内容を確認しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：荻原 理 (教授)

講義コード：LB34201, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：古代哲学史 (前篇)

2. Course Title (授業題目)：History of Ancient Philosophy (Part 1)

3. 授業の目的と概要：

- ・古代ギリシャ哲学のうち、ミレトス学派からプラトンまでの主な哲学者（ピュタゴラス、ヘラクレイトス、パルメニデス、ソクラテスも含む）の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。
- ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもらおう（質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので）。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回（以降）でもよい。
- ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう（数名まで）。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら 8 分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくれればよい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The objective is to learn the basics about ancient Greek philosophy from Milesian School to Plato. Basically a lecture, but questions will be very welcome. Up to about four attendants can give a presentation to cover a portion of the material.

5. 学習の到達目標：

- ・ミレトス学派からプラトンまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。
- ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To become able to explain basic ideas of Greek philosophers from Milesians to Plato.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

ミレトス学派 (1)：万物のアルケの探究

タレス、アナクシマン드로ス、アナクシメネス

2. ミレトス学派 (2)：アナクシマン드로スの断片

クセノファネス：神を擬人的に思い描くことへの批判

3. ピュタゴラス：万物は数から成る、魂は輪廻する

ヘラクレイトス：反対者は一致する

4. エレア派 (1)：パルメニデス

ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(導入)

5. エレア派 (2)：ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」(教室で議論)

6. エレア派 (3)：「アキレスは亀に追いつけない」(議論の続き、ゼノンの意図)ゼノンの弁証論

エレア派の挑戦に応える多元論者たち (1)：エンペドクレス

7. エレア派の挑戦に応える多元論者たち (2)：アナクサゴラス、デモクリトス

ソフィステス (プロタゴラス)、弁論家 (ゴルギアス)

8. ソクラテスとプラトンへのイントロ：ソクラテスは書かなかった、プラトン対話篇で著者はどこにいるのか

ソクラテス (1)：プラトン『ソクラテスの弁明』を中心に

9. ソクラテス (2)：プラトン『ソクラテスの弁明』

・『クリトン』を中心に (続き)

10. 【以降の回で、プレゼンテーションが入ることがあり得る。】

プラトン (1)：『メノン』(探究のアポリア、想起説) など

11. プラトン (2)：『パイドン』(魂不死、イデア論) など

12. プラトン (3)：『国家』(ギュゲスの指輪、幸福と正義の関係) など

13. プラトン (4)：『国家』(善のイデア) など

14. プラトン (5)：論じ残したこと

15. 授業のまとめ学期末試験

8. 成績評価方法：

学期末試験 (持ち込み不可) のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションをしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する (試験を受けなくてよい)。

9. 教科書および参考書：

参考書：

加藤信朗『ギリシア哲学史』(東京大学出版会、1996 年)

内山勝利 (責任編集)『哲学の歴史 1』(中央公論新社、2008 年)

それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。

**1 0. 授業時間外学習：**

前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**1 2. その他：**

予備知識は特に必要ない。

授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい (した場合、厳しく対応します)。

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：荻原 理 (教授)

講義コード：LB44202, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：古代哲学史 (後篇)

2. Course Title (授業題目) : History of Ancient Philosophy (Part 2)

3. 授業の目的と概要：

- ・古代ギリシャ哲学のうち、アリストテレス、ヘレニズム哲学、新プラトン主義の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。
- ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもらう (質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので)。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回 (以降) でもよい。
- ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう (数名まで)。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら 8 分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The objective is to learn the basics about ancient Greek philosophy from Aristotle to Plotinus. Basically a lecture, but questions will be very welcome. Up to about four attendants can give a presentation to cover a portion of the material.

5. 学習の到達目標：

- ・アリストテレス以降での西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。
- ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To become able to explain basic ideas of Greek philosophers from Aristotle to Plotinus.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ  
アリストテレス (1) : 形相と質料
2. アリストテレス (2) : 形相と質料
3. アリストテレス (3) : 始動因
4. アリストテレス (4) : 行為の目的論
5. アリストテレス (5) : 自然の目的論
6. アリストテレス (6) : オルガノン
7. アリストテレス (7) : 芸術論など
8. ヘレニズム哲学 (1) : ヘレニズム哲学へのイントロ  
ヘレニズム哲学 (2) : 主にエピクロス派
9. ヘレニズム哲学 (3) : 主にエピクロス派
10. ヘレニズム哲学 (4) : エピクロス派とストア派
11. ヘレニズム哲学 (5) : 主にストア派
12. ヘレニズム哲学 (6) : 主にストア派
13. ヘレニズム哲学 (7) : 懐疑主義
14. 新プラトン主義
15. 授業のまとめ学期末試験

8. 成績評価方法：

学期末試験 (持ち込み不可) のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションをしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する (試験を受けなくてよい)。

9. 教科書および参考書：

参考書：

- 内山勝利 (責任編集) 『哲学の歴史 1』 (中央公論新社、2008 年)
  - 内山勝利 (責任編集) 『哲学の歴史 2』 (中央公論新社、2007 年)
  - A・A・ロング 『ヘレニズム哲学』 (京都大学学術出版会、2003 年)
- それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)

11. 実務・実践的授業/Practical business： ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

予備知識は特に必要ない。

授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい (した場合、厳しく対応します)。

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB32207, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：デカルト『省察』入門

2. Course Title (授業題目) : Descartes' Meditations

3. 授業の目的と概要：

デカルトの『第一哲学の省察』(1641 年) は、近代哲学の礎となった書である。このデカルトの主著は、神の存在証明と心身(物心)二元論の確立を目標とするが、さらにそれを目掛けて、普遍的懐疑、自己意識と精神の存在、誤謬と自由意志、物体の本質と存在証明、心身結合と人間の生といった幅広いテーマが論じられる。これらの議論は、その後の近代哲学に問題枠組を与え、近代的思考の命運がどこで決するかを定めることになった。

講義では、『省察』本編のテキストを読みすすめるとともに、そこに積みこまれた哲学的諸問題を引き出し、ときには大きく脱線して、歴史的あるいは問題分析的に解明を試みつつ、またテキストに戻るといふしかたで、デカルト哲学への導入を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Reading Descartes' Meditations on First Philosophy and examining the philosophical topics in them.

5. 学習の到達目標：

哲学文献の基本的な読解力を身につける。デカルトに即して哲学の基本的な諸問題を学び、みずから思考し、表現する力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will learn to read classical texts and to examine philosophical topics in them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. デカルトとその時代 — 『省察』への導入
2. 懐疑の極限にいとむ — 第一省察 (1)
3. 普遍的な懐疑は可能か — 第一省察 (2)
4. 「私はある」の発見 — 第二省察 (1)
5. 精神への精錬 — 第二省察 (2)
6. 蜜蝋の分析 — 第二省察 (3)
7. 神の存在証明と観念の表現的实在性 — 第三省察 (1)
8. 無限に溢れゆく他者としての神 — 第三省察 (2)
9. 人はなぜ誤謬に陥るか — 第四省察 (1)
10. 人間の行為と自由 — 第四省察 (2)
11. 物体即延長の科学哲学 — 第五省察 (1)
12. 神の存在論的証明 — 第五省察 (2)
13. 心身の実在的区別 — 第六省察 (1)
14. 心身の実体的結合と物体の存在 — 第六省察 (2)
15. 哲学と生 — 第六省察 (3)

8. 成績評価方法：

数回の小課題と期末レポートによって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書 ルネ・デカルト著『省察』山田弘明訳、筑摩書房(ちくま学芸文庫)、2006 年。  
(購入して講義に持参してください。)

10. 授業時間外学習：

『省察』を読んでから講義に臨み、講義では思考を同期させ、講義のあとは内容を反芻して自分の言葉で咀嚼すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB41403, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：近代哲学史（6） 人間への問い

2. Course Title (授業題目)：Modern Philosophy 6: What is a Human Being?

3. 授業の目的と概要：

人間をめぐる近代の哲学的思考の歴史について講義する。「ひとはおのれを何者だと考えるのか」という人間の自己理解の思想史を辿ることによって、「人間とは何か」という哲学的な問いに迫りたい。自分が自分自身にとって深い謎であるということが人間の本質であり、その謎をめぐる思想史はまさしく生成する「人間の哲学」である。とりわけ近代は、科学の興隆や市民社会の成立などによって、人間の自己理解が大きく揺らいだ時代であり、その思想史は現代のわれわれの哲学的自覚にとっても不可欠の前提となる。

講義では、思想史の通覧よりも、各回のトピックに即した事象的な把握につとめる。また、人間をめぐる西洋思想史の大枠を把握するために、古代中世と現代にも触れる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

We will explore the history and topics of modern philosophy concerning the question: What is a Human Being?

5. 学習の到達目標：

人間をめぐる近代哲学史を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will learn the modern philosophy on a human being.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論——みずからを問う人
2. 魂とは何か——古代の心の哲学
3. 神と人——中世哲学の人間論
4. ルネサンスにおける人間の尊厳
5. デカルトにおける心身論と情念論
6. ホッブズの人間論と政治哲学
7. イギリス道徳哲学の展開
8. ヒュームにおける情念と社会
9. ルソーの社会契約論と言語起源論
10. カント美学入門——美と共通感覚
11. カントの歴史哲学と人間学
12. ヘーゲルにおける国家と人間
13. ニーチェと歴史の問題
14. フッサールとメルロ＝ポンティの身体論
15. 哲学的人間学の射程

8. 成績評価方法：

数回（4回程度を予定）の小レポート（2000字程度）による。

9. 教科書および参考書：

適宜、プリントを配付する。

10. 授業時間外学習：

講義で紹介した文献を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：小松 恵一 (非常勤講師)

講義コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：自律道德の問題――E. Tugendhat の人間学 (1)

2. Course Title (授業題目)：The Problem of Autonomous Moral――Anthropology of E. Tugendhat(1)

3. 授業の目的と概要：

Tugendhat は、ベルリン自由大学で教えていた哲学者である。彼は、晩年になって形而上学ではなく人間学を哲学の基盤に据えるべきであると主張している。

1. 彼の人間学の個別テーマの一つ、自律の諸問題に関する論文を精読し理解することが第一の目標である。(Ernst Tugendhat, Das Problem einer autonomen Moral in: "Anthropologie statt Metaphysik", 2te Auflage, 2010, S.114~S.135)

2. そのことによって、哲学的思考の過程を追跡できるようにする。

3. さらに、ドイツ語で哲学論文を読むことに親しむ。ドイツ語論文によく登場する表現を会得する。

4. その際、一文一文訳読してもらう。

5. 問題、理解の難しい箇所があっても、教師はヒントを与えるが、できるだけ学生自身が解決できるようにする。

6. 参考にすべき他の哲学者の文章を課題として読んできてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Ernst Tugendhat is a philosopher who taught at the Free University of Berlin. In his later years he contends that anthropology has to be positioned as a first philosophy instead of metaphysics.

1. The main Objective of this course is to read his a

5. 学習の到達目標：

1. Tugendhat の自律論を理解する。

2. 道德論のさまざまな立場、とくに David Gauthier の Kontraktualismus、また Schopenhauer の Mitleidmoral などの立場と対比することができる。

3. ドイツ語の哲学論文を読めるようにする。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. to understand his theory of autonomy in its details above all.

2. to be able to compare his theory with the related discussions of Kontraktualismus und Mitleidmoral.

3. to be able to read philosophical articles written in German easier than before

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 ドイツ語で哲学論文を読む際に注意すべきこと。外国語で論文を読む意味について。

2. 現代における自律の意味。Wir befinden uns heute in einer moralischen Desorientierung. (S.114)

3. 事実的道德意識の分析だけでは不十分な理由。Wird also nicht die Frage nach einer autonomen Moral aufgegeben, wenn man das faktische moralische Bewußtsein als Maßstab ansieht?(S.115)

4. カントの自律道德の基礎づけ。daß dieses moralische Bewußtsein in der reinen Vernunft gründe. (S.116) Grundlegung der Metaphysik der Sitten を参照する。特にその第三章。

5. カントの自律道德の基礎づけ。

6. カントの基礎づけへの批判。Nicht der Mensch ist also autonom, mein jeweiliger empirischer Wille, sondern die Vernunft. (S.117)

7. 子供の成長過程への視点。Um zu verstehen, worum es sich hier handelt und warum die Kantische Antwort unzufrieden ist, können wir uns an der Situation eines Kindes orientieren. (S.117-118)

8. 現代の道德哲学の二つの動向、契約主義と共感道德、Kontraktualismus und Mitleidmoral.

9. 契約主義の代表者の一人として、David Gauthier. Er will zeigen, erstens, daß fast alle Menschen aus einem Interesse eine Moral wollen müssen, und zweitens, wie die Moral beschaffen wäre, wenn nur das eigene Interesse maßgebend ist. (S.118) Gauthier の Morals by Agreement の一部を参照する。

10. Kontraktualismus の論理。引き続き Gauthier の上掲書の一部を読む。

11. Kontraktualismus への批判。Die Schwierigkeit des Kontraktualismus liegt in dem, was man die moralische Verpflichtung nennt. (S.118-119)

12. Schopenhauer の Mitleidmoral の論理。Schopenhauer, Preisschrift zur Begründung der Moral を参照する。

13. Schopenhauer の Mitleidmoral の論理の続き。Preisschrift を読む。

14. Mitleidmoral への批判。特にカント的立場から。

15. 以上を踏まえたうえでの、道德の再定義(S.124ff.) Da all das verständlich machen soll, was für eine Moral im allgemeinen charakteristisch ist, haben wir jetzt auch ein brauchbares Kriterium dafür, wie wir die moralischen Überzeugungen von ihren anderen Wertüberzeugungen unterscheiden können.

8. 成績評価方法：

授業における訳読の正確さ、課題をどの程度こなしているかによって評価します。(試験はありません)。

9. 教科書および参考書：

Ernst Tugendhat, Das Problem der autonomen Moral, in: "Anthropologie statt Metaphysik", 2te Auflage, 2010, S.114 ~S.135)

Immanuel Kant, Grundlegung der Metaphysik der Sitten

Arthur Schopenhauer, Preisschrift zur Begründung der Moral

David Gauthier, Mora

**1 0. 授業時間外学習：**

予習は必須です。

必要に応じて、授業で発表してもらった課題が提起されます。

Students have to read the text before the class carefully.

Assignments will be given which will be presented in the class.

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**1 2. その他：**

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：小松 恵一（非常勤講師）

講義コード：LB44304, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：自律道徳の問題——E. Tugendhat の人間学(2)
2. Course Title (授業題目)：The Problem of autonomous Moral---Anthropology of E. Tugendhat(2)
3. 授業の目的と概要：  
前期と同様ですが、一段階上位のレベルを目指します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)  
just as in the former semester, with the aims of attaining the by one step higher level.
5. 学習の到達目標：  
前期と同様
6. Learning Goals(学修の到達目標)  
just as in the former semester
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. autonome Moral 問題の概観（前期の総括）
  2. autonome Moral と Begründung の問題。Setzt man aber die Struktur einer Moral im allgemeinen voraus, ist eine Moral ein System wechselseitiger Forderungen, das daher auch wechselseitig begründbar sein muss. (S. 126)
  3. 相互的な要求と相互的な基礎づけの必要。道徳の普遍性は確保できるのか。Heißt das für den einzelnen nicht, dass das Ergebnis für ihn dann gegebenenfalls weniger vorteilhaft, also weniger rational ist?(S. 126)
  4. Kontraktualismus 的な子供と親との対話。他者にとっても妥当する規範にのみ従うことは、Heteronomie となるか。Wäre das gegenüber meinen eigenen Interessen nicht ein Aspekt der Heteronomie?(S. 127)
  5. 生物学における Altruismus の扱い。人間の場合の相互的 Altruismus. 機能主義的説明。Deswegen erscheint es rational vorteilhaft sogar für die Stärkeren, ein solches System einzugehen. (S. 128)、その限界。
  6. 一緒に自律するという理念。Es ist die Idee einer gemeinsamen Autonomie, auf die es in einer aufgeklärten Moral ankommt. (S. 129)
  7. gemeinsame Autonomie という概念の明確化、カントとの対比で。再びカントの Grundlegung der Metaphysik der Sitten の自律概念、ならびに Metaphysik der Sitten の法概念を取り上げる。カントにおける道徳の普遍性あるいは相互性の根拠。(S.129) Was motiviert nun den einzelnen, so eine systematische Beziehung einzugehen?
  8. 自律の二つの意味。Man muss freilich noch zwischen zwei Bedeutungen von Autonomie mit Rücksicht auf die Moral unterscheiden. (S. 130)
  9. 自律性と自発性。Das Wort "autonom" kann nun aber auch---vielleicht etwas forciert---im Sinn von "spontan" verwendet werden. (S. 131) Schopenhauer の Mitleidsmoral 再考。
  10. Altruismus の二つの形態と Mitleid。Mitleid によつては、自律は導き出せない。Nur aus dem Eigeninteresse läßt sich verstehen, wie sich eine nicht-heteronome Moral generieren kann. (S. 132)
  11. しかし、Mitleid は autonomische Moral に位置を占めるべきである。Hingegen kann man sich klarmachen, dass die Moral der gemeinsamen Autonomie das Mitleidsmotiv aufnehmen kann und vielleicht muss. (S. 132)
  12. Mitleid は、Autonomie der Moral に組み入れられることによって、道徳の普遍性に寄与する。Nun führt das seinerseits zu einer Rückwirkung auf die Allgemeinheit der Moral. (S. 133)
  13. generalisiertes Wohlwollen. 善意の普遍化という問題。
  14. 平等の二つの源泉。Es scheint also zwei Quellen für die Bedeutung der Gleichheit im intersubjektiv Praktischen zu geben. (S. 134f.)
  15. Zusammenfassung まとめと総括
8. 成績評価方法：  
前期と同様
9. 教科書および参考書：  
Ernst Tugendhat, Das Problem der autonomen Moral, in: "Anthropologie statt Metaphysik", 2te Auflage, 2010, S. 114 ~S. 135) の後半部分。
10. 授業時間外学習：  
前期と同様
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
12. その他：

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：荻原 理 (教授)

講義コード：LB33302, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：哲学研究のレッスン (2)

2. Course Title (授業題目)：Philosophy for Beginners: 2

3. 授業の目的と概要：

前期の「哲学研究のレッスン (1)」の続きです。哲学専修の 2 年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。(倫理学専修の方は「倫理学研究のレッスン」の欄をご覧ください。)

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したり発表したりする力を身につけることです。

最初の 10 回ほどは英語のテキストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジュメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の 4 回ほどは、担当者が自分で決めたテーマについて発表を行い、みなでそれをめぐって議論します (前期・後期を通じて 1 人 1 回発表して頂きますので、後期は、前期に発表しなかった方に発表して頂くことになります)。今学期発表をしない人には、自分で決めたテーマについての学期末レポートを提出して頂きます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We shall read a couple of chapters from Simon Blackburn's THINK in the first ten sessions except the very first. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessi

5. 学習の到達目標：

(1) 哲学・倫理学の英語文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論できるようになる。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心から議論を展開できるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Become able to understand and discuss philosophical texts written in English.

Become able to find and discuss philosophical topics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

変更するかもしれません。

1. ガイダンス

2～6. Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。

7～11. 同書の 'Self' の章を読み、議論する。

12～15. 発表と討論

8. 成績評価方法：

英語テキストについてのレジュメ報告や討論 (60%)。最後 4 回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に説明する。

10. 授業時間外学習：

英語テキストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。

レジュメ報告を担当するさい、事前に教員および TA に相談し、アドバイスを受けて下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

倫理学基礎講読と合併で授業します。

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、3 年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回に、教員として相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：直江 清隆, 城戸 淳 (教授)

講義コード：LB43302, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：哲学研究のレッスン(2)

2. Course Title (授業題目)：Philosophy for Beginners 2

3. 授業の目的と概要：

前期の「哲学研究のレッスン (1)」の続きです。哲学専修の2年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。(倫理学専修の方は「倫理学研究のレッスン」の欄をご覧ください。)

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したり発表したりする力を身につけることです。

最初の5～10 は英語のテキストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジュメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の4回ほどは、担当者が自分で決めたテーマについて発表を行い、みなでそれをめぐって議論します(前期・後期を通じて1人1回発表して頂きますので、後期は、前期に発表しなかった方に発表して頂くこととなります)。今学期発表をしない人には、自分で決めたテーマについての学期末レポートを提出して頂きます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We shall read a couple of chapters from Simon Blackburn's THINK in the first ten sessions except the very first. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions

5. 学習の到達目標：

- (1) 哲学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
- (2) 哲学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Become able to understand and discuss philosophical texts written in English.

Become able to find and discuss philosophical topics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2～6. Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。

7～11. 同書の 'Self' の章を読み、議論する。

12～15. 発表と討論

(参加者の人数により、内容を一部変更することがある)

8. 成績評価方法：

英語テキストについてのレジュメ報告や討論 (60%)。最後4回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に説明する。

10. 授業時間外学習：

英語テキストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。

レジュメ報告を担当するさい、事前に教員およびTA に相談し、アドバイスを受けて下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

哲学基礎講読と合併で授業します。

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、3年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回に、教員として相談ください。

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB54208, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ニーチェの道徳批判

2. Course Title (授業題目) : Nietzsche's Critique of Morality

3. 授業の目的と概要：

ニーチェの道徳批判について考察する。19 世紀末にニーチェが提起した過激な批判は、20 世紀の哲学や思想を駆動してきた。しかし、キリスト教道徳に対するニーチェの系譜学的な批判は、いわば不発弾のまま、21 世紀のわれわれにまだ突きつけられているように思われる。この講義では、ニーチェの歴史哲学の形成、力への意志と遠近法主義、生の価値をめぐる超越論的問題、ニヒリズムと永遠回帰などの諸論点について考察しつつ、ニーチェの『道徳の系譜学』を読み解くことにしたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students will examine Nietzsche's critique of morality on the basis of reading his On the Genealogy of Morality.

5. 学習の到達目標：

ニーチェの道徳批判を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Understanding an outline of Nietzsche's critique of morality.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 問題提起——なぜ道徳を批判するのか
- 2 若きニーチェにおける古典文献学と歴史
- 3 系譜学の方法の形成
- 4 『道徳の系譜学』へ——序論を読む
- 5 第一論文 (1) ——イギリスの心理学者と貴族的価値評価
- 6 第一論文 (2) ——ルサンチマンによる価値転換と自己欺瞞
- 7 第二論文 (1) ——よい良心と疚しい良心
- 8 第二論文 (2) ——内攻的残虐さから神に対する罪へ
- 9 第三論文 (1) ——禁欲主義の理想
- 10 第三論文 (2) ——キリスト教の自己超克
- 11 ニーチェの道徳批判と生の価値の問題
- 12 ヨーロッパのニヒリズム
- 13 道徳の遠近法と歴史
- 14 永遠回帰の肯定的理解へ

8. 成績評価方法：

数回の小レポートと期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

ニーチェ『道徳の系譜学』中山元訳、光文社 (光文社古典新訳文庫)、2009 年。

(購入のうえ講義に持参すること。)

10. 授業時間外学習：

『道徳の系譜学』を読み、講義をふまえて、再読する。その反復によって、ニーチェ的な思考の文体を体得してください。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：齋藤 直樹 (非常勤講師)

講義コード：LB51403, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：「フランクフルト学派」の哲学とその周辺

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of the Frankfurt School and Its Surrounding Ideas

3. 授業の目的と概要：

「フランクフルト学派」とは、1920 年代にフランクフルト大学に設立された社会研究所のメンバーと思想的ないしは歴史的に関連をもつ思想家集団のことをいう。彼らの思想の基本的な特徴は、マルクスが提示した史的唯物論を土台としつつも、当代の哲学ならびに経験諸科学が示す最新の知見を逐一導入することを通じて、現代社会のアクチュアルな問題を批判的に解明しようとする「学際的唯物論」の構想にある。本講義では、この構想の現代へと至る批判的な継承過程を、第一世代による「道具的理性批判」(ホルクハイマー／アドルノ)、第二世代による理性批判の「コミュニケーション論的転回」(ハーバーマス)、第三世代による「承認論的転回」(ホネット)を主軸として概観し、彼らの思想を支える哲学的主張の骨子を通史的に理解することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The Frankfurt School is a group of thinkers concerning social theory and critical philosophy associated with the Institute for Social Research at Goethe University Frankfurt founded in the nineteen-twenties. This course provides an overview of the history

5. 学習の到達目標：

1. 20 世紀初頭から現在に至るフランクフルト学派の思想的展開を通史的に捉えることができるようになる
2. 「批判理論」の理念ならびに方法論的な特徴を理解することができるようになる
3. 理論と実践ないしは哲学と社会の関係のあり方に対して自分なりの観点を持つことができるようになる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is for students to become able to;

1: grasp the historical process of the development of the theories of the Frankfurt School in the twentieth century.

2: understand the fundamental ideas and the methodological characteristic

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. フランクフルト学派の社会的背景：ナチズムとユダヤ人問題
2. フランクフルト学派の思想的背景：マルクスとフロイト
3. 初期フランクフルト学派の思想(1)：ホルクハイマーにおける「批判」概念
4. 初期フランクフルト学派の思想(2)：ベンヤミンの「アレゴリー論」
5. 第一世代の思想(1)：初期アドルノにおける「自然史の理念」と「コンステラチオン」
6. 第一世代の思想(2)：『啓蒙の弁証法』における「道具的理性批判」
7. 第一世代の思想(3)：『否定弁証法』における理性批判の展開
8. 第一世代の思想(4)：『美の理論』における否定的ユートピアニズムの射程
9. 第二世代の思想(1)：ハーバーマスによるアドルノ批判
10. 第二世代の思想(2)：理性批判の「コミュニケーション論的転回」
11. 第二世代の思想(3)：公共性の構造転換—「システム」と「生活世界」
12. 第三世代の思想(1)：ホネットによるハーバーマス批判
13. 第三世代の思想(2)：理性批判の「承認論的転回」
14. 第三世代の思想(3)：「物象化」概念への承認論的アプローチ
15. フランクフルト学派の現代的展開

8. 成績評価方法：

学期末のレポート (80%)、平常点 (20%)

なお、レポートを提出するためには、全体の三分の二以上の出席を要する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、必要に応じて補助資料を配付する。参考文献は授業中に随時指示する。

No textbooks will be used. Handouts will be given corresponding to necessary. Students should take notes on their own.

10. 授業時間外学習：

指定された文献あるいは配布された資料を熟読するとともに、各回の講義内容をその都度ノート等にまとめ整理しておくこと。

Students are required to review each class using handouts and the notes of the lecture.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 駿 (非常勤講師)

講義コード：LB64404, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：知覚の哲学入門

2. Course Title (授業題目)：An Introduction to the Philosophy of Perception

3. 授業の目的と概要：

知覚経験は、生物と世界との最も基本的な関係である。哲学においては、とりわけ近代以降、私たち人間と世界とあいだのこの基本的関係をめぐって様々な見解が陰に陽に提出されてきた。現代では、いわゆる「知覚の問題」を想定しつつ、その経験の認識論的身分・形而上学的本性にわたって再び議論されなおしている。この授業では、知覚経験の何が問題なのか、またどのような見解がありうるのかを歴史的な背景を踏まえつつ検討していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Perceptual experience is thought of as the most basic relation between us and the world: we know the things, its properties, the states of affairs in the world through perceptions. But how? In philosophy, how to evaluate the epistemological significance a

5. 学習の到達目標：

1. 知覚についてどんなことが問題となりうるかを理解することができる。
2. 知覚の認識論と形而上学とを区別できる。
3. 知覚の哲学について、自分なりの見解を持つことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of the course is to help students (1) understand what problems there are in the philosophy of perception, (2) distinguish the epistemology between the metaphysics of perception, and (3) have their own view on the matter.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 歴史的背景 (1)：实在論・観念論・懐疑論
3. 歴史的背景 (2)：現象学とプラグマティズム
3. 知覚の問題 (1)：その論証
4. 知覚の問題 (2)：その諸帰結
5. 諸立場の整理：間接的实在論・直接的实在論
6. 知覚の問題の分析 (1)：二元論的前提
7. 知覚の問題の分析 (2)：表象の前提
8. これまでのまとめ
9. 選言主義 (1)：そのアイディア
10. 選言主義 (2)：その帰結
11. 知覚の内容 (1)：表象的内容一般について
12. 知覚の内容 (2)：概念的内容と非概念的内容
13. 知覚的知識の表出主義 (1)：アイディアを集める
14. 知覚的知識の表出主義 (1)：定式化
15. 全体の振り返り

8. 成績評価方法：

授業への積極的参加度 (30%)、期末レポート (70%)。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は授業内でそのつど指示する。

[No textbooks are used. The lecturer will recommend some readings relevant to each topic as the course goes on.]

10. 授業時間外学習：

授業で扱われた考え方、思想、人物、キーワードなどを自分なりに調べ、授業の内容と合わせて理解の定着を図ること。事典やインターネットを見る、読むだけでなく、ノートをつくるなどして、整理するとよい。

[Students are expected to search and summarize thoughts, concepts, and historical figures that appear in the course, in their own way.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中， 単位数：2

担当教員：伊勢田哲治（非常勤講師）

講義コード：LB98824， 科目ナンバリング：LHM-PHI305J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：科学と疑似科学の間

2. Course Title (授業題目) : Between Science and Pseudoscience

3. 授業の目的と概要：

科学のようで科学でない領域、いわゆる疑似科学は長らく科学哲学の1つの関心領域となってきた。特に、ポパーの設定した「境界設定問題」において、科学と疑似科学の境界設定は中心的なテーマとなった。1980年代以降このテーマの研究は下火となっていたが、近年この問題への関心は再び高まりつつある。この授業では科学と疑似科学の関係について古典的な議論と近年の知見を紹介し、この問題についての受講者の理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The region of something that looks like science (but not really science) is called pseudoscience, and this has been a long-standing interest of philosophy of science. In particular, within the 'demarcation problem' set by Popper, the demarcation between s

5. 学習の到達目標：

境界設定問題の展開を理解するとともに、科学と疑似科学の切り分けについてどのような立場があるかを理解し、批判的な検討ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

to understand the development of the demarcation problem, to know what are the main alternatives as to demarcating science and pseudoscience, and to acquire the capacity to examine those alternatives critically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一部 歴史的背景

1 境界設定問題の歴史(1回)

2 疑似科学概念の歴史(1回)

第二部 古典的論文

3 ポパーの定式化(2回)

4 クーンらの対案(1回)

5 ルースと創造科学(1回)

6 ラウダンの「墓去」論文(1回)

7 境界確定作業の社会学(1回)

第三部 近年の展開

8 近年の再定義の試み(2回)

9 プラグマティックアプローチ(2回)

10 疑似科学にまつわる現在の問題(2回)

11 まとめ(1回)

8. 成績評価方法：

授業中に課す小テストと事後のレポート

9. 教科書および参考書：

伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』（京都大学出版会，2003）

10. 授業時間外学習：

授業終了後にレポート提出のための調査や執筆が必要となる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：生命環境倫理学各論／ Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB52305, 科目ナンバリング：LHM-PHI306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：生命環境倫理の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues in Bio- and Environmental Ethics

3. 授業の目的と概要：

医療をはじめとする科学技術と人間の関わりをどう捉えるかは今日ますます重要な問いとなっている。この授業では応用倫理学の基本的な概念と原理を学ぶとともに、生命環境倫理学の主要問題を紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

How to understand the relationship between science, technology including medicine and human beings has become an increasingly important issue. This course deals with the basic concepts and principles of applied ethics. It also explains some important issues.

5. 学習の到達目標：

応用倫理学の基本的な事項を理解し、生命環境倫理学の個別の問題に対して自分なりに考えることができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of applied ethics
- Discuss the individual problems of bio- and environmental ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

規範倫理学の基礎とともに、生命環境倫理学におけるその具体的あり方、現在の諸問題について順次検討する。基本的に講義とディスカッションで構成するが、必要に応じてビデオの使用、論文紹介を行う。

- 1, はじめに：生命環境倫理学への招待
- 2, 功利主義
- 3, 功利主義と医療資源の配分
- 4, 義務論
- 5, 義務論と自己決定
- 6, 徳倫理学
- 7, 政治哲学(1)
- 8, 政治哲学(2)
- 9, 生殖医療
- 10, 終末期医療
- 11, 再生医療
- 12, 感染症の倫理
- 13, 環境倫理学の基礎：人間中心主義か否か
- 14, 環境倫理学の展開
- 15, まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 80% (授業中に実施する小レポートを含む) 授業への参加 20%

9. 教科書および参考書：

参考書：赤林 朗他編『入門・医療倫理』I～III、勁草書房。吉永 明弘、福永 真弓『未来の環境倫理学：災後から未来を語るメソッド』勁草書房

10. 授業時間外学習：

上記テキストを本に基本事項を解説するので必ず振りかえって見ていただきたい。生命倫理学や環境倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：生命環境倫理学演習／ Bio-Environmental Ethics (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：直江 清隆 (教授)

講義コード：LB42303, 科目ナンバリング：LHM-PHI314J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：AI と人間 (医療や気候変動など)

2. Course Title (授業題目)：AI and human being (Medicine, Climate Change etc.)

3. 授業の目的と概要：

AI やロボットは人間や社会を大きく変えようとしている。医療や環境をめぐる問題も例外では無い。この授業ではこのような状況で考慮されるべき平等、権利、豊かさ、エンハンスメントなどについて考えていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

AI and robots can radically change the human-world relations including medical and environmental ones. This course deals with ethical issues such as equality, rights, richness, enhancement, etc. that should be considered in the AI society.

5. 学習の到達目標：

生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of applied ethics
- Discuss the individual problems of bio- and environmental ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、参加者で分担を決め、論文紹介と討論をメインとする。テキストとしては、Mark Coeckelbergh , AI Ethics (MIT Press Essential Knowledge series) 2020, Simon Peter van Ryseyk et al(ed), Machine Medical Ethics, 2015 などから適宜選択する。必要に応じて日本語文献も使用する。分量にこだわらず、じっくり討論することに力点を置く。

- 1, ガイダンス (授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て)
- 2, 技術哲学の現在と AI
- 3, AI と人間 (1)
- 4, AI と人間 (2)
- 5, AI と人間 (3)
- 6, AI と人間 (4)
- 7, AI と人間 (5)
- 8, AI と人間 (6)
- 9, AI と人間 (医療や環境) (7)
- 10, AI と人間 (医療や環境) (8)
- 11, AI と人間 (医療や環境) (9)
- 12, AI と人間 (医療や環境) (10)
- 13, AI と人間 (医療や環境) (11)
- 14, AI と人間 (医療や環境) (12)
- 15, まとめ

(研究状況や参加者の関心に応じて扱うトピックスを若干変更することがある)

8. 成績評価方法：

レポート (訳読の担当などを含む) 60% 授業全体への貢献度 40%

9. 教科書および参考書：

開講時に分担一覧を配布し、プリントはそのつど配布する。

そのほかの参考文献については適宜授業内に指示する。

10. 授業時間外学習：

担当の回でなくとも予習すること、討議をもとに再度自分で考え直すこと。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、前期の授業で扱った基本書にも進んで取り組んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：森 一郎 (非常勤講師)

講義コード：LB52401, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：アーレント『革命論』再読

2. Course Title (授業題目)：Reading Hannah Arendt's On Revolution

3. 授業の目的と概要：

ハンナ・アーレントの『革命論』は、『人間の条件』(『活動的生』)に次ぐ第二の哲学的名著であり、21 世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版 (1963 年) とドイツ語版 (1965 年) との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める (ドイツ語版からの日本語訳を配布する)。今学期は、後半の中心をなす第 4～5 章を一定のペースで読んでゆく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

- ・ 20 世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。
- ・ 哲学書の原典読解に堪える語学力を身につける。
- ・ テキストの内容や疑問点を整理して発表し、質疑応答を交わす力を養う。
- ・ 哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ語版の Hannah Arendt, Über die Revolution の日本語訳を配布し、主にそれに拠って議論する予定。英語版 On Revolution とその邦訳『革命について』も参照する。

毎回の担当者は、段落ごとにまとめたレジュメを作成、配布し、それに基づいて報告し、議論をリードする。ドイツ語原文に照らしての訳文の検討も歓迎する。

授業の進行スケジュールは、おおむね以下を予定している。

第 1 回 ガイダンスとイントロダクション——『革命論』を今日読むということ

第 2 回 第 4 章 (その 1)

第 3 回 第 4 章 (その 2)

第 4 回 第 4 章 (その 3)

第 5 回 第 4 章 (その 4)

第 6 回 第 4 章 (その 5)

第 7 回 第 4 章 (その 6)

第 8 回 第 5 章 (その 1)

第 9 回 第 5 章 (その 2)

第 10 回 第 5 章 (その 3)

第 11 回 第 5 章 (その 4)

第 12 回 第 5 章 (その 5)

第 13 回 第 5 章 (その 6)

第 14 回 第 6 章の展望

第 15 回 まとめ——『革命論』と「活憲」

8. 成績評価方法：

平常点 (出席は当然とし、発表担当、議論への参加など) を 60%、学期末レポートを 40% として総合評価する。

9. 教科書および参考書：

- ・ ドイツ語版テキストの日本語訳をコピーして配布し、これを授業の主要テキストとする。
- ・ 原書は購入を勧めるが、希望者には該当箇所をコピーして配布する予定。  
Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper, 1965/ Hannah Arendt, On Revolution, Faber, 1963
- ・ 英語版からの日本語訳は、参考書として各自購入を勧める。  
ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫、1995

10. 授業時間外学習：

毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には何度も読み直して、理解を深めること。

各回の担当者には担当箇所のテキスト精読と入念なレジュメ作成が求められること、言うまでもない。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB52501, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：

フッサールの『内的時間意識の現象学』を読み、現象学の基本概念を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The aim of this course is to read Husserl's "On the Phenomenology of the Consciousness of Internal Time" and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of phenomenology.

5. 学習の到達目標：

- ・現象学の基本概念について説明をすることができる。
- ・現象学の議論における時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology
- Discuss the role of time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

現象学の根底に横たわる問題として時間がある。『内的時間意識の現象学』は現代哲学、思想、科学に大きな影響を及ぼしている名著であり、問題の書でもある。フッサールは物理的時間ではなく、それを構成していく時間を構成する意識についての解明を行っていく。時間は一瞬で流れ去るのに、多くのものはなぜ持続的に「存在する」ということが可能なのか。

この授業では現象学について紹介をしたのち、本書を原文で読むことにします。ドイツ語のほかにもすぐれた英訳もあります。また、詳細な訳註と解説がついた日本語訳も出ています。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めます。

- 1、イントロダクション 現象学とは
- 2、『内的時間意識』における時間の問題概観
- 3、『内的時間意識』読解 (1)
- 4、『内的時間意識』読解 (2)
- 5、『内的時間意識』読解 (3)
- 6、『内的時間意識』読解 (4)
- 7、『内的時間意識』読解 (5)
- 8、中間まとめ 知覚と時間意識
- 9、『内的時間意識』読解 (6)
- 10、『内的時間意識』読解 (7)
- 11、『内的時間意識』読解 (8)
- 12、『内的時間意識』読解 (9)
- 13、『内的時間意識』読解 (10)
- 14、前期時間論と後期時間論
- 15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. Zur Phänomenologie des inneren Zeitbewusstseins, (Husserliana X), ("On the Phenomenology of the Consciousness of Internal Time", 『内的時間意識の現象学』谷徹訳、ちくま学芸文庫) 欧文テキストは授業時に配布する。参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる

10. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB62503, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：

フッサールの『内的時間意識の現象学』を読み、現象学の基本概念を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The aim of this course is to read Husserl's "On the Phenomenology of the Consciousness of Internal Time" and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of phenomenology.

5. 学習の到達目標：

- ・現象学の基本概念について説明をすることができる。
- ・現象学の議論における時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology
- Discuss the role of time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、フッサールの『改造』論文(1922-24)を読みます。

この授業では現象学について紹介をしたのち、本書を原文で読むことにします。ドイツ語のほかにもすぐれた英訳もあります。また、詳細な訳註と解説がついた日本語訳も出ています。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めます。

1、前期の授業の復習：『内的時間意識』における時間の問題構成

- 2、『内的時間意識』読解（1）
- 3、『内的時間意識』読解（2）
- 4、『内的時間意識』読解（3）
- 5、『内的時間意識』読解（4）
- 6、『内的時間意識』読解（5）
- 7、『内的時間意識』読解（6）
- 8、『内的時間意識』読解（7）
- 9、『内的時間意識』読解（8）
- 10、『内的時間意識』読解（9）
- 11、『内的時間意識』読解（10）
- 12、『内的時間意識』読解（9）
- 13、『内的時間意識』読解（10）
- 14、前期時間論と後期時間論
- 15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. Zur Phänomenologie des inneren Zeitbewusstseins, (Husserliana X), ("On the Phenomenology of the Consciousness of Internal Time", 『内的時間意識の現象学』谷徹訳、ちくま学芸文庫) 欧文テキストは授業時に配布する。参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる

10. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：荻原 理 (教授)

講義コード：LB51305, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：プラトン『ソフィステス』を読む (1)

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Plato's SOPHIST, 1

3. 授業の目的と概要：

プラトン『ソフィステス』を原語 (古代ギリシャ語) で丹念に読み進める。あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す (わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構)。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。二次文献も適宜参照する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

We shall read Plato's SOPHIST from the beginning. First the previously appointed attendant will translate a certain passage into Japanese and raise questions of any kind. Then all of us will discuss. Occasionally we shall discuss secondary literature.

5. 学習の到達目標：

今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所 で問題になっている事柄について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To become able to explain the philosophical points in the passage that we shall have read. To become able to explain the details of the text of the passage.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。

最初はゆっくり (1 回に 8 行ほどからスタート)、だんだんとペースを上げていき、最後は 1 回に OCT の 1 ページ半くらい進めるようになりたい (各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。)

とくに第三人間論についての二次文献を適宜参照、議論する。

8. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

9. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

次回に読む箇所の予習

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：荻原 理 (教授)

講義コード：LB61301, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：プラトン『ソフィステス』を読む(2)

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Plato's SOPHIST (2)

3. 授業の目的と概要：

前期に読み進めたところから引き続き、プラトン『ソフィステス』を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらかでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We shall read Plato's SOPHIST from where we arrived in the last semester. First the previously appointed attendant will translate a certain passage into Japanese and raise questions of any kind. Then all of us will discuss. Our focus will fall on philo

5. 学習の到達目標：

今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To become able to explain the philosophical points of the passage that we shall have read. To become able to explain the details of the text of the passage.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『ソフィステス』をできるだけ読み進める。ペースはだんだん上げていく。

8. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

9. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

次回に読む箇所の予習

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB55409, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：哲学のメソッド

2. Course Title (授業題目)：How to Write a Philosophy Paper

3. 授業の目的と概要：

哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読み解き、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方でも議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。

この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を講義した後、サイモン・ブラックバーン著『ビッグクエスチョンズ 哲学』(山邊昭則・下野葉月 訳)を用いたワークショップ型の演習を行なう。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, you will learn how to write a philosophical paper through participation in group works.

5. 学習の到達目標：

1. 哲学論文の分析方法に習熟する。
2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. You will be familiar with philosophical methods
2. You will be able to find research themes, examine the literature related to the themes, and make up your own discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

学期全体の授業構成は以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 哲学研究方法論講義
3. 文献のまとめ方講義
- 4～7. ワークショップ型演習 (4～5人のグループに分かれて、選んだテーマについて討論する)
- 8～9. ワークショップ発表
- 10～15. 卒論・修論構想発表

8. 成績評価方法：

授業中の課題に取り組む (60%)、研究発表 (40%)

9. 教科書および参考書：

サイモン・ブラックバーン『ビッグクエスチョンズ 哲学』(山邊昭則・下野葉月 訳) 2015年、ディスカバリー

佐々木健一『論文ゼミナール』2014年、東京大学出版会

戸田山和久『新版 論文教室—レポートから卒論まで』2012年、NHK出版会

10. 授業時間外学習：

論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。

この授業は哲学専修・倫理学専修3年次の学生向けである。他専修や他学年で受講を希望する者は授業担当教員と相談すること。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB65401, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：記号論理学

2. Course Title (授業題目) : Formal Logic

3. 授業の目的と概要：

一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purpose of this lesson is to learn the language of first-order logic, learn how to check the validity of a tableau, and use that skill to examine the validity of inference in Japanese.

5. 学習の到達目標：

1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。
2. 記号の操作法を身につける。
3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. Understand the basic concepts of formal logic.
2. Learn how to operate symbols.
3. To acquire the ability to examine the validity of inference in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー 1
7. タブロー 2
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性 1
12. 日本語による推論の妥当性 2
13. 日本語による推論の妥当性 3
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014 年  
丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014 年

10. 授業時間外学習：

自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB55503, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：概念工学研究 1

2. Course Title (授業題目)：Conceptual Engineering 1

3. 授業の目的と概要：

分析哲学において近年、急速に勃興してきた研究潮流である概念工学を概観する。そのために、戸田山和久・唐沢かおり編著『〈概念工学〉宣言！』名古屋大学出版会、2019 年、を演習形式で読む。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

To have an overview of conceptual engineering, a rapidly emerging research trend in analytical philosophy in recent years.

5. 学習の到達目標：

1. 概念工学の方法論を理解する。
2. 概念工学の方法論を使用して、思索を展開することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. To understand conceptual engineering methods
2. To be able to develop arguments by using conceptual engineering methods

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『〈概念工学〉宣言！』の各章を、順に、概観する。

1. 第 1 章 哲学の側からの Let's 概念工学 1
2. 第 1 章 哲学の側からの Let's 概念工学 2
3. 第 2 章 心理学の側からの Let's 概念工学 1
4. 第 2 章 心理学の側からの Let's 概念工学 2
5. 第 3 章 心の概念を工学する 1
6. 第 3 章 心の概念を工学する 2
7. 第 4 章 自由意志の概念を工学する 1
8. 第 4 章 自由意志の概念を工学する 2
9. 第 5 章 自己の概念を工学する 1
10. 第 5 章 自己の概念を工学する 2
11. 第 6 章 心理学者によるまとめと今後に向けて 1
12. 第 6 章 心理学者によるまとめと今後に向けて 2
13. 第 7 章 哲学者によるまとめと今後に向けて 1
14. 第 7 章 哲学者によるまとめと今後に向けて 2
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表 (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

戸田山和久・唐沢かおり編著『〈概念工学〉宣言！』名古屋大学出版会、2019 年

10. 授業時間外学習：

書籍を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB65503, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：概念工学研究 2

2. Course Title (授業題目)：Conceptual Engineering 2

3. 授業の目的と概要：

分析哲学において近年、急速に勃興してきた研究潮流である概念工学を概観する。そのために、Kate Manne, 2017, Down Girl: The Logic of Misogyny. Oxford University Press を演習形式で読む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

To have an overview of conceptual engineering, a rapidly emerging research trend in analytical philosophy in recent years.

5. 学習の到達目標：

1. 概念工学の方法論を理解する。
2. 概念工学の方法論を使用して、思索を展開することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To understand conceptual engineering methods
2. To be able to develop arguments by using conceptual engineering methods

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Down Girl: The Logic of Misogyny の各章を、順に、概観する。

1. Preface: Wronging Him, Introduction: (Eating) Her Words
2. Chapter 1: Threatening Women 1
3. Chapter 1: Threatening Women 2
4. Chapter 2: Ameliorating Misogyny 1
5. Chapter 2: Ameliorating Misogyny 2
6. Chapter 3: Discriminating Sexism 1
7. Chapter 3: Discriminating Sexism 2
8. Chapter 4: Taking His (Out) 1
9. Chapter 4: Taking His (Out) 2
10. Chapter 5: Humanizing Hatred 1
11. Chapter 5: Humanizing Hatred 2
12. Chapter 6: Exonerating Men
13. Chapter 7: Suspecting Victims
14. Chapter 8: Losing (To) Misogynists
15. Conclusion: The Giving She

8. 成績評価方法：

授業時の発表 (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

Kate Manne, 2017, Down Girl: The Logic of Misogyny. Oxford University Press

ケイト・マン『ひれふせ、女たちーミソジニーの論理』(小川芳範訳)、慶應義塾大学出版会、2019 年

10. 授業時間外学習：

書籍を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB33502, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』(1781/87年)における「誤謬推理論」とは、魂の実体性、単純性、同一性、離在性を論証したと称する合理的心理学に対する批判であり、伝統的な靈魂の形而上学とカントの新たな自我論・自己意識論との闘いを活写している。しかも誤謬推理論は『純粋理性批判』第二版において全面的に改稿され、動く批判哲学の一断面を伝える一章でもある。

演習では、『純粋理性批判』のドイツ語原文を丹念に読む。また、進行に応じて、関連する各種コメンタリーや研究書・論文などを報告してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

A close reading and analysis of "The Paralogisms of Pure Reason" of Kant's Critique of Pure Reason in two editions.

5. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop the abilities to read and analyse philosophical texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入——『純粋理性批判』入門、演習の進め方

2-5. 純粋理性の誤謬推理 (第一版)

6-7. 第一 実体性の誤謬推理／批判

8-9. 第二 単純性の誤謬推理／批判

10-11. 第三 人格性の誤謬推理／批判

12-15. 第四 観念性(外的関係の)の誤謬推理／批判

8. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)

10. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

ドイツ語の初等文法を習得済みであることが必須だが、未履修者は1ヶ月の自習で詰め込んで臨んでよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB43502, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』(1781/87年)における「誤謬推理論」とは、魂の実体性、単純性、同一性、離在性を論証したと称する合理的心理学に対する批判であり、伝統的な靈魂の形而上学とカントの新たな自我論・自己意識論との闘いを活写している。しかも誤謬推理論は『純粋理性批判』第二版において全面的に改稿され、動く批判哲学の一断面を伝える一章でもある。

演習では、『純粋理性批判』のドイツ語原文を丹念に読む。また、進行に応じて、関連する各種コメンタリーや研究書・論文などを報告してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

A close reading and analysis of "The Paralogisms of Pure Reason" of Kant's Critique of Pure Reason in two editions.

5. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop the abilities to read and analyse philosophical texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1-4. (承前) 総括についての考察 (第一版)

5-8. 純粋理性の誤謬推理 (第二版)

9-13. メンデルスゾーン論駁

14. 解決の結び

15. 移行の一般的注解

8. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)

10. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

ドイツ語の初等文法を習得済みであることが必須だが、未履修者は1ヶ月の自習で詰め込んで臨んでよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB64209, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：カントの目的論

2. Course Title (授業題目)：Kant's Teleology

3. 授業の目的と概要：

カントの『判断力批判』(1790)の第2部「目的論的判断力の批判」は、先行する2つの批判書の亀裂を埋め、批判哲学に体系的連関を与える雄篇である。そこで展開されるカントの目的論の哲学は、生物学の哲学的基礎づけというにとどまらず、こんにちなお、生命や自然をめぐる文明的課題に応える示唆を与えるものであるように思われる。演習では、第2部の分析論から弁証論までを邦訳をもとに読みすすめ、担当者による報告をふまえて、カントの目的論をめぐる諸論点について討議する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Close reading and philosophical analysis of "Critique of the Teleological Power of Judgment" in Kant's Critique of the Power of Judgment.

5. 学習の到達目標：

『判断力批判』を読み、カント的な目的論の概要を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand an outline of Kantian teleology on the basis of reading the third Critique.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 カント『判断力批判』第2部「目的論的判断力の批判」への導入

第2～第8回 第1編「目的論的判断力の分析論」読解

第9～第14回 第2編「目的論的判断力の弁証論」読解

第15回 総括と討議

8. 成績評価方法：

討議、担当回の報告、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

カント『判断力批判』熊野純彦訳、作品社、2015年。

(当該箇所のコピーでも可。)

10. 授業時間外学習：

事前にテキストを読み、演習に参加して、事後に再読する。その過程を反復することが、哲学的な理解を深める近道です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

